

発掘ニュース

第 12 号

昭和 61 年 7 月 25 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

くせ はらたて ・ ばんじょうち いせき 久世原館・番匠地遺跡 — 中世城館跡の調査 —

久世原館と番匠地遺跡は、いわき市内郷御厩町字久世原と番匠地地内にあって、磐城第一高等学校の西側に隣接する丘陵とその裾部に相当します。

この館（城）跡は、最大落差47m、幅250m、全長700mを有する大型な館跡ですが、市道の建設に伴って現況が著しく変えられてしまうため記録保存を目的として昨年の12月より調査を進めています。これまでの調査によって遺跡の範囲も丘陵の裾部から水田にまで及んでいることが判明しています。

また、この城は室町時代後半頃まで使用されたようですが、水田の深いところでは鎌倉時代まで遡ると予想される井戸や溝の跡が見つかっています。この時期のものとして、陶磁器、土師質土器、古銭、そして漆塗りの椀があります。



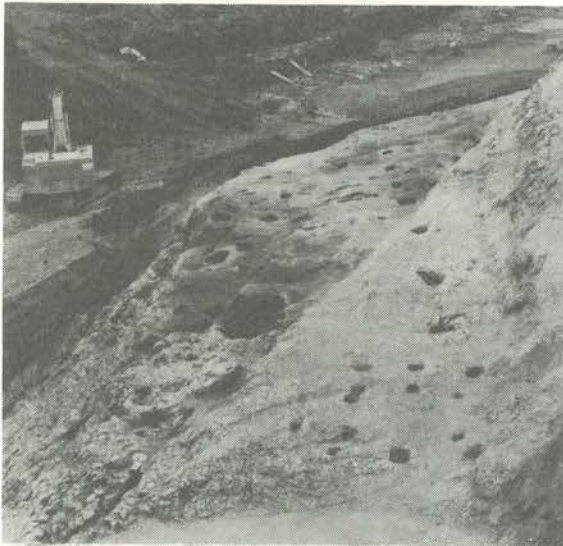
第1図 航空写真 南上方から見た久世原館・番匠地遺跡

昭和60年度調査の成果

昭和60年度の調査は、丘陵斜面部と丘陵裾部について行いました。成果は目を見はるものがあり、斜面部では曲輪（くるわ・人工的に造り出された平場）を6つ確認しました。また、裾部からは土坑・溝・柱穴・井戸等が多数見つかりました。遺物についても、縄文時代から江戸時代に至るまでの資料がたくさん出土しています。以下、簡単に述べていきます。

遺構 曲輪は、削平や盛土によって作りだされています。うち1つの曲輪からは、1間×3間の掘立柱建物跡1棟と2間×2間の小規模な掘立柱建物跡2棟が確認されています。裾部に目を移すと、無数の柱穴がまとまりをもって見つっていますが、どのような建物が建てられたかは不明です。溝は、12条見つっていますが、うち1条は地形に沿って東西に延びています。その他にも、土坑15基、井戸跡2基なども見つっています。

遺物 縄文土器なども見られますが、特に中世の遺物は豊富に見つっています。陶磁器類は、中国産の青磁の香炉や皿・椀などが少なからず見つっています。主なものは国産の瀬戸・伊万里・常滑焼などです。石製品では、



第2図 掘立柱建物跡

大小の硯や砥石が数多く見つっています。木製品では、漆塗りの碗が数点見つっているほか、下駄や板材なども見つかりました。さらに市内で初めて出土した木簡は、文字こそ書かれていませんが大変珍しいものです。今年度以降の水田部分の調査でも、木製品の数はさらに増加するものと思われます。

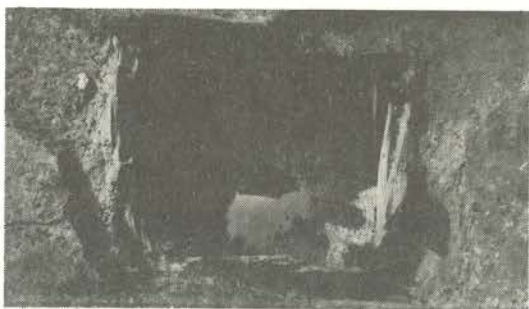
ここでは、城館跡や屋敷跡などのように中近世（鎌倉－江戸時代）の遺跡から発見される特徴ある遺構や遺物について説明いたします。ちなみに市内では中近世の城館跡が200箇所前後ありますが、昭和60年度までに発掘された城館跡は、勿来町では館ノ内遺跡・鬼越館・大高城、植田町では館跡遺跡と八幡台遺跡、平では砂屋戸荒川館、常磐では三沢館、好間町では愛谷館、小川町では館遺跡などがあります。

右の写真は調査区の最も東側に見つかった柱穴群のひとつです。軟らかい土に掘られたため、礎石を置いて柱を沈まないように工夫した例です。柱が残っているのは、この場所に豊富な湧水があったからです。



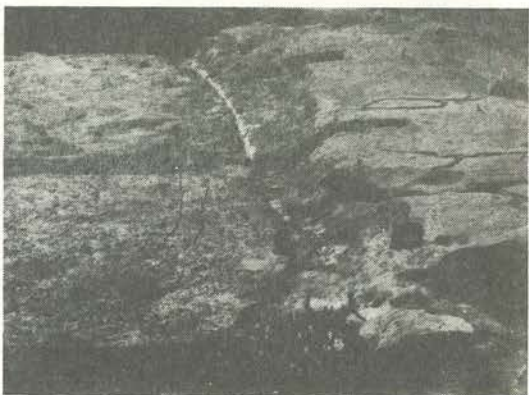
第3図 礎石をもつ柱穴

井戸は、沢の出口付近から2基ほど発見されています。造り方も違います。1基は、地面を掘り込んだままの“素掘り井戸”。1基は、掘り込んだあとに板材を組んで造った“木組み井戸”（右写真）です。

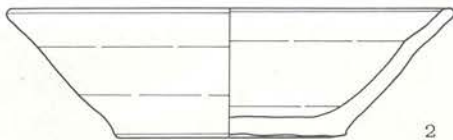
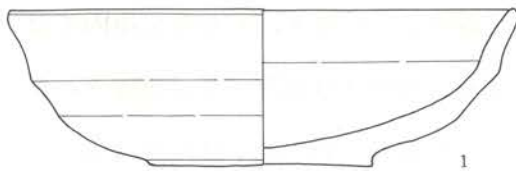


第4図 第2号井戸跡

本溝は、現水田下1.5mに発見され、幅2.0m、深さ0.1－1.3m、長さは120mを測ります。丘陵に沿って東西に走り、西端は本年度調査区へ延びると予想され全長はさらに長くなるようです。溝内部からは15－16世紀代の国産陶磁器や中国製の磁器が多量に出土しています。

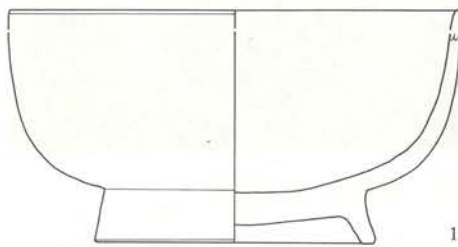


第5図 第8号溝跡



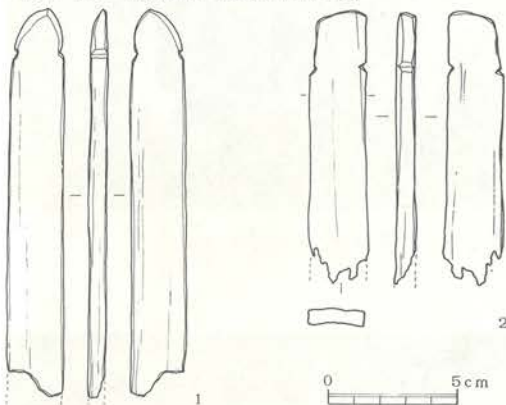
第6図 土師質土器 (はじしつどき)

鎌倉時代から江戸時代頃にかけて焼かれた素焼きの土器です。当遺跡からは大小の皿が完形も含めて多数発見されました。現在の紙コップのような使われ方をした土器と考えられ、また燈明皿としても利用されます。1は13世紀代、2は15世紀代のものです。



第7図 黒漆が塗られた椀

昨年度の調査で最も注目されるものに漆器があります。黒漆だけの製品や赤漆で紋様を描いた製品、家紋状の紋様をスタンプした製品などがあります。左の椀は、鎌倉時代後半から室町時代前半のものです。



第8図 木筒 (もっかん)

いわき地方では初見の遺物です。荷札や呪文が書かれたまじない札といった目的で使用されたと考えられます。また、祭祀用具の人形とも考えられます。いずれにしろ、本例には墨書きの痕跡はなく、側面にV字形の切り込みが見られるのみです。

お 知 ら せ

7月1日より新たに久世原館の西側と7月17日より小川町上平地内の小申田横穴群の調査も開始しています。久世原館・番匠地遺跡見学の問い合わせは、発掘調査事務所 0246(26)5384まで。

発行 昭和61年 7月25日
 編集 財団法人いわき市教育文化事業団
 福島県いわき市平字堂根町1-4 文化センター5階

としておきましょう